

21世紀への布石

行政新庁舎

沖縄県



沖縄県

21世紀への布石

行政新庁舎

もくじ

ごあいさつ	沖縄県知事 西銘順治……………	2～3
新庁舎の容姿	陽光に映える行政棟……………	4～5
	雄姿に息づく文化と風土……………	6～7
新庁舎の設備	涼感溢れる安らぎの空間……………	8～9
	伝統が生きる三役室……………	10～11
	機能性を考慮した執務環境……………	12～13
	県政の窓口・案内と相談……………	14～15
	身障者の利便を図る各施設……………	16
	取材活動の拠点と庁内放送……………	17
	拡充される福利厚生設備……………	18～19
新庁舎の特徴	集中管理で機能を強化……………	20～21
	省エネと防災重視の優れた設計……………	22～23
	要所に見られる文化の粹……………	24～25
落成式典と祝賀会……………		26～27
起工式から完成まで……………		28～31
庁内概要資料……………		32～34



ごあいさつ



待望久しかった新しい行政庁舎は、約3年6ヶ月の歳月をかけて平成2年1月に完成しました。

県庁舎建設事業は、複雑多様化する社会、高度情報化する社会、そして旺盛な行政需要など、新時代のニーズに対応するために計画された、いわば「21世紀への布石」となる一大事業であります。

その建設の基本理念は、高度の機能性を具備し、かつ将来の行政需要及び省エネ・省資源による経済性と安全性等に配慮するとともに、沖縄固有の自然や歴史、文化や風土を生かした風格ある行政庁舎をめざしたものとなっており、庁舎の各所にその理念が活かされております。

新庁舎完成までの間は、第1から第5までの五つの庁舎と民間ビルを借用しての行政運営であったため、行財政の効率性からみても決して好ましい状態とはいえ、県民の皆様にも不便と迷惑をかけてまいりました。

しかし、この素晴らしい新庁舎の完成によって、今後はより充実した県民サービスを図ることができるとともに、21世紀に向けた円滑な県政の推進によって本県の発展に大きく寄与することができるものと確信いたしております。

追って、平成4年には県議会棟が、平成5年には警察棟が完成することになっており、これら三つの庁舎の整備によって21世紀に向けた本県の行政及び政治の中核機能が拡充されることになるわけであります。

この写真集は、沖縄県民の財産であり、かつ県政のシンボルである新しい行政庁舎の容姿、機能性、そして特徴など、その概要を紹介することによって県民の御理解と今後の県政運営に御協力をいただくために編集したもので、多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

沖縄県知事 西銘順治

新庁舎の容姿

↓西側全景



↑南東側全景

新しい行政庁舎の建設工事に着工したのが昭和61年8月。爾来3年6カ月の歳月をかけ、平成2年1月17日に、地下2階、地上14階の素晴らしい庁舎の完成をみました。

その容姿は、どの角度から観てもどっしり構えて安定感に満ち、県行政のシンボルとしての雄姿を表象しています。

これは、高層建築物にありがちな圧迫感を和らげるために、低層部は黒色に中層部はグレー、高層部は白というように三層を色彩と材料によって区分し、変化と安定感をもたせているからです。

本誌の表紙が、その庁舎壁面をアップした写真です。

陽光に映える行政棟

←南西側全景



↓東側全景



←正面全景遠望



新庁舎の容姿



↑ 南側広場と龍柱



↑ 首里城の城壁をイメージした西側囲い



↑ 正面玄関上部に立つ魔除けの獅子

雄姿に息づく文化と風土

新庁舎設計の基本理念の一つに、「沖縄の風土と文化を生かし沖縄県を表象するにふさわしい風格を備えた庁舎」というのがありますが、庁舎の要所に沖縄固有の文化を生かした素材や造形をみることができます。

首里城城壁を模した塀囲い、南側庭園の龍柱やホールと玄関の丸柱は首里城正殿をイメージしており、玄関上部には沖縄の風土の中から育まれたシーサーが台座しています。



ソテツの植え込みと正面玄関



← 県庁標札と庁舎



→ 正面玄関の車寄せ

新庁舎の設備



↑6階中庭の枯山水の石庭

親しみと安らぎの県民ホールは、高い天井と大きな丸い柱に囲まれて涼感溢れる大広間となっており、その南側には来庁者の休憩や待ち合わせのために56席のソファが用意されています。

6階には守礼門の造形や枯山水の石庭があって、吹き抜けから差し込む陽光に眩しいばかりの絵模様を描き出しています。

また、最上階には、那覇市街地や東支那海を一望できる展望室があります。



←守礼門の基礎部分の造形



→首里城の龍櫓を模した造形

涼感溢れる安らぎの空間



←涼感と安らぎの広場・県民ホール



←最上階の展望室



→県民ホール南側の待合室

新庁舎の設備



↑知事室

知事室は、副知事室や出納長室とともに6階にあります。ベージュ色を基調とした風格ある執務室になっています。

特に、第一及び第二応接室の室内装飾には沖縄の伝統工芸の芭蕉布や琉球かすりや漆などが使われ、沖縄固有の雰囲気をもたらし、その重厚な風情は、来客の共感を呼び、話題になっています。

一方、副知事室や出納長室はグレー系統の色彩を基調に装飾され、三役室にふさわしい落ち着いた雰囲気の執務室となっています。

また、室外の廊下は、中庭からの採光によって明るく、そして静かな趣を呈しています。



↑第一応接室



↑第二応接室

伝統が生きる三役室



↑副知事室



↑三役室前の廊下



↑副知事応接室



↑出納長室

新庁舎の設備

↓ 講堂調整室



↑ 4階にある講堂

↓ 文書保存室



↑ 印刷室

機能性を考慮した執務環境

時代や社会の変化とともに、行政需要も増大傾向にあり、これらに対応できる設備機能や執行体制が必要になっています。

新しい行政庁舎は、将来の行政需要に対応し得るよう光ファイバーによるLANシステムをはじめ、日常業務に必要な設備が整備されています。

一般職員の執務室はもとより県首脳が高度な施策を調整協議するための庁議が開かれる特別会議室、部内外の関係各機関との調整等に使用する会議室等が各階に整っています。



↑ 一般職員執務室



↑ 庁議が行われる特別会議室



→ 一般会議室

新庁舎の設備



↑交通事故相談室



↑行政情報センター(2F)

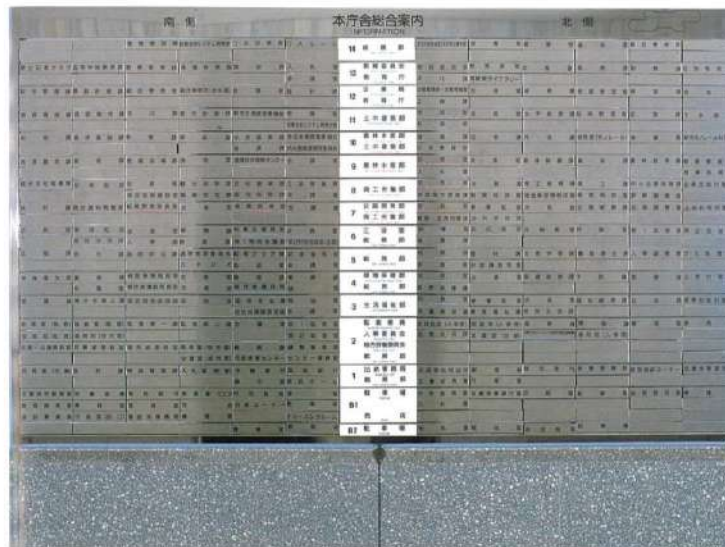


↑旅券事務所

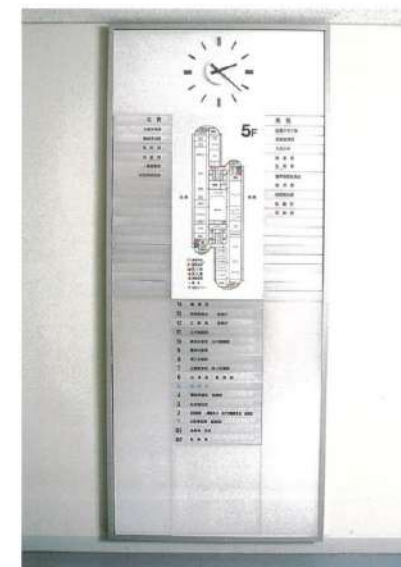


↑県民相談コーナー

県政の窓口・案内と相談



↑1階エレベーター横の各機関の案内板



↑各階の案内板

県庁には毎日、手続や相談などで多くの方々を訪れます。一方、新庁舎は、知事部局をはじめ、各種行政委員会、企業局等の執行機関が入っている総合庁舎です。

したがって、案内と相談は県民との最初の接点としてたいへん重要であることから、1階の東側と西側のエレベーターホールには全体の案内盤を、また各階にはその階の機関の案内板を設置し、さらに1階県民ホールの総合案内所でも気軽に尋ねられるように配慮しています。

そのほか、県民相談コーナーや交通事故相談所等の相談業務、行政関係図書等が閲覧できる行政情報センター、そして旅券事務所などがあります。



↑県民ホールにある総合案内所

新庁舎の設備

身障者の利便を図る各設備



↑ 8ヵ所にある身障者専用トイレ



↑ 総合案内所に通ずる点字ブロック

← 車椅子仕様エレベーター(外)



↑ 車椅子仕様エレベーター(内)

身体が不自由な方々のために配慮した設備もあります。

まず、目の不自由な方々のために、正門から玄関に入って総合案内所まで点字ブロックが敷設されており、そこから先は案内係が目的の場所まで案内することになっています。

また、東側と西側のエレベーターのうち1基は、ドアの開閉や停止階等の案内を機内放送しているほか、車椅子の方々の専用トイレも設備されています。

取材活動の拠点と庁内放送

行政の動向を県民に知らせることは民主主義社会においてたいへん重要なことです。

県においても広報活動を通じてお知らせしていますが、記者の取材により新聞や放送のニュース番組を通じて県政の動きを知るのが日常的でしょう。

これらの取材活動の拠点となるのが記者クラブであり、記者会見室です。

庁舎6階にある県政記者クラブには、地元8社と本土関係9社の記者がここを拠点に取材活動を行っています。

また、記者クラブの隣には職員への通知や連絡のための放送スタジオがあります。



↑ 共同記者会見室

↓ 庁内放送スタジオ



↑ 各社の記者が入っている記者クラブ

新庁舎の設備



↑売店



喫茶店 →



←理容室



←一般食堂

職員の福利厚生や利便等を図るための設備も整備されました。

職員が常に良好な状態で執務に携わることは大切なことです。このため、診療所をはじめ、休憩室、トレーニングルームが設置されています。

また、地下1階には、食堂、喫茶店、売店、理容室、銀行などがあるほか、1階には郵便局や銀行などがあります。

今後、議会棟の完成に伴って屋外周辺も整備されますが、その中には県民広場の整備計画もあり、県庁周辺は県民の憩いの場になることでしょう。

拡充される福利厚生設備



↑銀行



↑診療所



↑郵便局

新庁舎の特徴



↑電気室



↑電算室

↓冷温水機室



新庁舎の大きな特徴の一つは庁舎の集中管理でしょう。

すなわち、庁舎が分散し、庁舎ごとに管理していた旧庁舎と異なって全て集中管理でき、機能の強化や経費の節減など効率的な管理を行っています。

中央監視室では、電力、防災、空調等の関連機器をはじめ、エレベーターの運転など、コンピューター制御で自動的・効率的にコントロールし、総合的に管理しています。

また、電算室では大型コンピューターによる財務管理、LANシステムの導入による事務改善等を図っています。駐車場も地下1～2階に集中管理して、効率的に運用しています。

集中管理で機能を強化



↑中央監視室



↑電話交換機室

↓地下駐車場



新庁舎の特徴



↑ 間引き点灯で節電

新庁舎は、省資源・省エネルギーによる経済性と防災等の安全性が考慮されています。

台風など、あらゆる災害に対応するため、防災行政無線電話が設置され、本庁と出先機関、市町村、消防本部等と交信できるよう設備されています。また、特に火災に対する施設や設備には細心の配慮がなされ、非常事態に対応して、警報設備や通報設備、避難設備、消火、防火設備などが整備されています。省エネにしても、一定の照度や温度に達すると自動的に節電したり、エレベーターも効率的に運行するようになっており、トイレの流しは雨水と井水を溜めて使用しています。



↑ 雨水と地下水使用で節水



↑ エレベーター機械室

↓ 屋上の空調等設備



省エネと防災重視の優れた設計



↑ 防災行政無線室



↑ バルコニー（避難外廊）

↓ 消火設備



↑ 避難階段

↓ ハロン消火設備



新庁舎の特徴

沖縄には、その地理的・歴史的条件下から育まれた有形無形の独特の文化的所産がありますが、新庁舎にはこれらの特徴が要所に採り入れられています。特に、首里城と伝統工芸に関わるものが顕著で、県民ホールの丸柱や南庭の龍柱、6階中庭の守礼門の基壇や龍樋、西側の囲壁などは全て首里城に関わるものです。

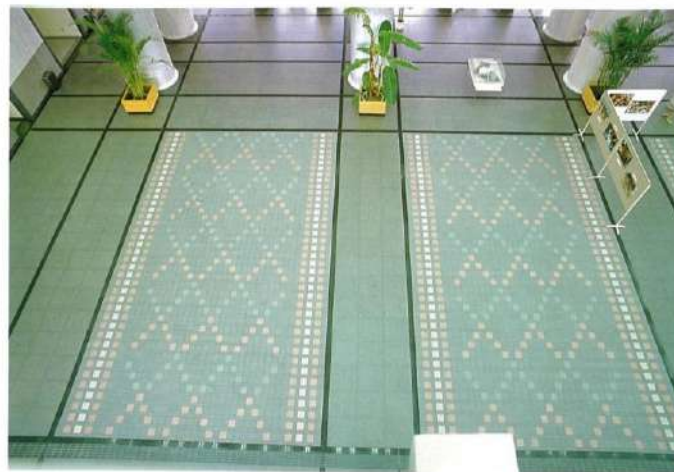
また、知事応接室の壁面には伝統織物の芭蕉布や琉球かすりが使われ、県民ホールの床面やエレベーターの扉などには琉球かすりを図案化した素材が使われています。

そのほか、建材として、ギリシャの「ペントルコン」という白色の大理石や南アフリカ産の「インバラ」という石が使われていますが、八重山花こう岩や源河石、宮古のトラバーチンなども使われ、沖縄の特色を出しています。



↑エレベーターホールにもかすり模様

要所に見られる文化の粋



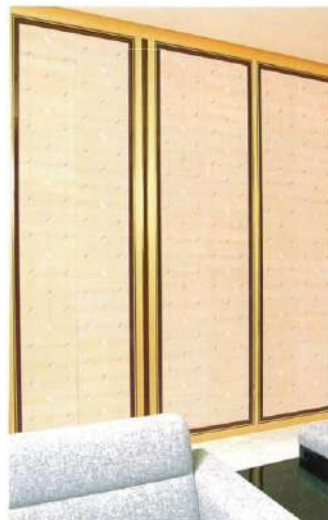
↑県民ホールの読谷山花織の図柄



↑琉球石灰岩の囲壁（庁舎西側）



↑首里城正殿龍柱の造形



↑琉球かすりの壁面



↑芭蕉布の壁面



↑守礼門基壇の造形

↓首里城の龍樋の造形



落成式典と祝賀会



↑正面玄関前でテープカット



↑新装の講堂で行われた行政棟落成式典



↑知事から設計者の黒川紀章氏に感謝状が贈られる



←落成の式辞を述べる西銘知事

行政棟の落成式典等の行事は、平成2年1月26日に行われた。

午前9時30分から、4階講堂隣の事務室で知事三役をはじめ、県議会議長ら関係者が出席して「神事」による祈願が行われた。

次いで10時30分から新しい行政棟の玄関前でテープカットが行われた後、11時10分から、新装になった4階の講堂で落成式典が挙行された。

式典では西銘順治県知事の式辞や感謝状の贈呈をはじめ、多くの来賓から祝辞をいただいた。

式典終了後、県民ホールに会場を移して盛大に祝賀会が開催され、行政棟の落成を祝った。



↑落成の祝詞奏上に頭を垂れて聴き入る出席者



↑県民ホールで行われた落成祝賀会



↑祝賀会会場で落成を祝う出席者

起工式から完成まで



↑昭和61年8月起工式を挙行



↑工事が始まった現場（昭和61年9月）



↑埋蔵文化財発掘調査で中断（昭和61年11月）



↑工事再開（昭和62年8月）



↑桟橋工事（昭和62年11月）

昭和53年4月「沖縄県庁舎整備委員会」が設置されて以来、構想10年の行政棟完成である。昭和61年8月に起工式を行い、着工後に埋蔵文化財の発掘調査で日程に若干の変更が生じたが、その後は事故もなく順調に工事は進み、3年6カ月の歳月をかけた行政棟はここに完成した。ここでは、その「起工式から完成まで」の工程を追ってみた。

↓型枠工事（昭和63年2月）



↑型枠鉄筋工事（昭和63年7月）



↑5階まで完成（昭和63年10月）

起工式から完成まで



↑PCF取り付け工事



↑塔屋部分の工事（平成元年6月）



←県民ホールの内装石工事（平成元年10月）



↑船型をした塔屋の鉄骨工事（平成元年6月）



↑南側の植栽工事（平成元年11月）



↑北側方面の植栽工事（平成元年11月）



←完成間近い行政庁舎（平成元年十二月）

庁舎概要資料

1.建設の経過

昭和53年4月20日・沖縄県庁舎整備委員会設置要綱を制定し、委員会を設置。

昭和54年3月29日・沖縄県庁舎整備基金条例を制定し、庁舎建設の資金積立を開始。

昭和55年7月22日・昭和56年度重点施策に県庁舎建設を「復帰10周年記念事業」として位置づける。

昭和56年5月1日・総務部に県庁舎建設準備室（管財課に事務所）を設置。

昭和58年2月25日・県議会全員協議会で「庁舎建設計画」について審議。

昭和58年7月23日・県庁舎建設計画に広く県民の意見を反映させるため、学識経験者20人で構成する「沖縄県庁舎建設委員会」が発足。第1回沖縄県庁舎建設委員会開催、建設小委員会を設置

昭和58年12月26日・沖縄県庁舎建設基本構想を決定。

昭和59年9月20日・基本設計を契約。

昭和60年3月28日・基本設計完了。

昭和60年6月7日・実施設計を発注。

昭和61年2月2日・実施設計完了。

昭和61年7月22日・行政棟本契約を締結。

昭和61年8月22日・地鎮祭及び起工式を挙行。

昭和61年11月14日・埋蔵文化財発掘調査のため工事を一時中止。

昭和62年8月1日・工事再開（発掘調査8月14日に完了。）

昭和63年8月17・19日・電波障害対策住民説明会を開催。

昭和63年11月26日・電波障害対策工事（その1）契約締結。

昭和63年11月28日・沖縄県庁舎整備委員会で年次計画見直しを了承。

昭和63年12月7日・県庁舎建設年次計画を庁議で了承。

平成元年3月25日及び6月3日・電波障害対策工事（その1）竣工、（その2）契約。

平成元年6月28日・沖縄県庁舎行政棟上棟式を挙行。

平成元年10月26日・沖縄県庁舎行政棟定礎式を挙行。

平成2年1月17日・竣工。

平成2年1月26日・落成式及び祝賀会を挙行。

平成2年1月27日～28日・一般公開

平成2年2月5～18日・旧庁舎からの移転作業。

平成2年2月21日・開庁式を挙行。

2.建物の概要

所在地 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

敷地面積 29,072㎡

建築面積 4,746.30㎡

延べ面積 78,243.25㎡

行政棟本体 65,486.81㎡

地下駐車場 12,756.44㎡

容積率・建蔽率 225.3%・16.3%

階数 地下2階、地上14階、塔屋3階

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
（一部鉄骨造及び鉄筋コンクリート造）

建物軒高さ 58.1m

最高部高さ 71.5m
（77.5m：防災行政無線鉄塔を含む）

設計G.L 那覇港平均海面+8.5m

1F床高 G.L +0.2m

基準階 階高 4.0m

天井高 2.7m

駐車台数 (屋内)341台
(地下1階122台)
(地下2階219台)

二輪車置場(屋外) 75台

3.仕上の概要

(1)内部仕上

階	室名	床	壁	天井
1階	県民ホール	花崗岩、タイル張り	大理石張り	アルミルーバー天井
4階	講堂	タイルカーベット張り	自然木練付け合板張り	リブ付岩綿吸音板張り
基準階	一般事務室	ノンアスベストタイル張り	モルタル金ゴテEP塗り（間仕切りブラスターボード張り）	岩綿吸音板張り（システム天井）
	会議室	同上	同上	同上
	廊下	同上	同上	岩綿吸音板張り
各階	便所	長尺ビニールシート張り	100角磁気質タイル張り	耐水ブラスターボード張り
14階	展望室	ゴムタイル張り	ブラスターボードEP	ブラスターボードEP
地下1階	食堂	長尺ビニールシート	ビニールクロス張り	岩綿吸音板張り
地下	駐車場	アスファルト舗装	コンクリート打放し補修（腰VP塗り）	コンクリート打放し補修

(2)外部仕上

斜屋根	45角磁気質タイル
屋上	アスファルト防水の上、軽量コンクリート押え
外壁	花崗岩及び45角磁気質タイル打込みPCF版、 （一部コンクリート打放し補修の上、吹付けタイル）
犬走り	100角磁気質タイル張り及び花崗岩乱張り
車路床	アスファルト舗装
軒天井	1階 県民ホール廻り アルミ押出し型材スパン ドレルフッ素樹脂焼付け塗装 1階及び6階 軽量コンクリート成型版 吹付けタイル バルコニー コンクリート打放し補修の上吹付けタイル
中庭	アスファルト防水の上、軽量コンクリート押え白玉石敷き
建具	アルミ押出し型材 着色陽極酸化皮膜
ガラス	フロートガラス及び強化ガラス

4. 設備の概要

1. 電気設備

(1) 受変電設備

3相3線式 6.6kV/60Hz 本線・予備線 2回線	
変圧器 3相 (モールド型) 1,000kVA × 5基	
変圧器 3相 (モールド型) 500kVA × 1基	
変圧器 1相 (モールド型) 500kVA × 6基	
変圧器 1相 (モールド型) 250kVA × 1基	
コンデンサー	3台

(2) 自家発電設備

発電機	6,600V/1,500kVA/60Hz 2基
励磁方式	ブラシレス励磁機
起動方式	バッテリー始動
ガスタービンエンジン	1,800Ps/1,800rpm
燃料	A重油

(3) 中央監視設備

受変電設備、自家発電設備、防災設備、空調設備、給排水設備、昇降機設備、航空障害灯設備、無停電電源設備等の監視制御

(4) 無停電電源装置

定各電圧	200V 60Hz 3相3線式
定格出力	150kVA (単相15kVAを含む)

2. 空気調和設備

(1) 事務室系統は、ペリメータゾーンとインテリアゾーンに区分し、ペリメータゾーンはファンコイルユニット方式、インテリアゾーンは、空調機による可変風量ダクト方式 (VAV + 自動スクロールダンパ制御) である。

(2) 熱源設備

ガス炊き冷温水発生機	400 USRT 2台
ターボ冷凍機	400 USRT 1台
"	300 USRT 1台
"	200 USRT 1台
冷却塔	117,000~2,244,000 KCal 8台

(3) 換気設備

- 第1種換気：熱源機械室、ポンプ室、水槽室、駐車場、ゴミ処理スペース等
第2種換気：便所、湯沸室、倉庫等

3. 防災設備

(1) 中央監視室にR型受信機を配し監視盤CRTモニター等により

火災の早期発見、通報、初期消火、避難誘導等を行う。

(2) 消火設備

高層形スプリンクラーポンプ	110kW	1台
低層形スプリンクラーポンプ	75kW	1台
高層形ブースターポンプ	5.5kW	1台
低層形ブースターポンプ	3.7kW	1台
屋外消火栓ポンプ	37kW	1台
高層形屋内消火栓ポンプ	15kW	1台
低層形屋内消火栓ポンプ	11kW	1台
泡消火ポンプ	22kW	1台
消火器		367本

(3) 防排煙設備

防火シャッター、防火ダンパー、可動タレ壁、排煙口、防火扉、煙感知器、熱感知器

(4) 非常、業務用兼放送設備

型式 : F S - 861型
非常電源 : DC 24V・完全密閉蓄電池
蓄電池容量 6,000mAh/5HR (1個当たり)
定各出力 : 1,920W

4. 避雷針設備

避雷突	: L R 1型 7,500mm 3基
避雷導帯	: 2.0mm × 13mm
接地極	: 1.5t × 900mm × 900mm
設置棒	: 10cm × 1,500cm

5. 昇降機設備

(東側)

常用	: 直流ギヤレス20人乗り 1,350kg 180m/分 DC 28kW全自動群管理方式	5台
非常用	: 直流ギヤレス20人乗り 1,350kg 120m/分 DC 22kW方向性乗合全自動方式	1台

(西側)

常用	: 直流ギヤレス20人乗り 1,350kg 180m/分 DC 26kW全自動群管理方式	5台
非常用	: 直流ギヤレス20人乗り 1,350kg 120m/分 DC 18kW方向性乗合全自動方式	1台

6. 航空障害灯

型式	OM-3A・100V・100W	22台
----	-----------------	-----



21世紀への布石 〔行政新庁舎〕

発行年月日 平成2年9月10日

発行 沖縄県総務部管財課
那覇市泉崎1の2の2
Tel: (098) 66-2106
印刷 (協) 丸正印刷
西原町小那覇1215
Tel: (09894) 6-5151

非売品